

中国地域歯科医療管理学会 令和7年度学術大会 プログラム

「2025 年問題といわれていた、今」

令和7年10月26日(日)
9:00 ~ 15:30
(9:00 ~ 9:40 総会)

広島県歯科医師会館

〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番4号

TEL:082-263-8020 FAX:082-263-5525

中国地域歯科医療管理学会
一般社団法人広島県歯科医師会

大会長挨拶



令和7年度学術大会長
広島県歯科医師会会長 山崎 健次

令和7年度中国地域歯科医療管理学会総会・学術大会の開催にあたり、大会長として一言ご挨拶申し上げます。

今回の大会テーマにある「2025年問題」では、団塊の世代が後期高齢者となることで、医療・介護需要が急増すると予想され、医療制度や社会保障の持続可能性が大きく問われてきました。いよいよその年を迎えた現在、私たちは単なる将来予測ではなく、現実の課題と向き合わざるを得ない局面に立っています。加えて、出生率の低下により、政府の予測よりも早いペースで進む人口減少の中、今後、3人に1人が高齢者となる2035年問題、そして団塊ジュニア世代が65歳以上となり、労働力不足による社会保障制度の危機が問われている2045年問題が控えています。

こうした中、昨年実施された「歯科医療提供体制に関する中国5県調査～中国5県歯科医療機関分布に関する未来シミュレーション～」の調査結果が、島根県歯科医師会より公表されました。シミュレーションの結果では、10年後の2035年において総人口は減少する一方、75歳以上の人口は増加し、歯科医師の高齢化と相まって、中山間地域を中心に受診困難地区が現在の2,374地区から3,339地区と大幅に増える内容となっています。こうした大きな問題に対し、私たち個人開業医として出来ることは限られますが、悲観して立ち止まるのではなく、ICTやAIを活用した医療DXの推進や多職種との連携など、これまで培ってきた知識と経験を通して、新たな人材育成と地域に根ざした診療体制の構築に向けて、皆さまと一緒に模索していきたいと思います。

本学会は、この度実施された調査のように、地域の垣根を越えて取り行われ、その結果は全て共有されています。問題を共有することで様々な意見を出し合い、互いに研鑽を積み、未来ある歯科界のため、これまでも多大なご貢献を果たしてこられました。今大会も同様に、新たな光明を見出す一助となりましたら幸いです。

ご参加の皆さまにとりまして、実り多き学びと交流の場となりますことを心より祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

令和 7 年度 中国地域歯科医療管理学会 総会・学術大会の開催によせて



一般社団法人日本歯科医療管理学会

理事長 尾崎 哲 則

令和 7 年度 中国地域歯科医療管理学会 総会・学術大会の開催おめでとうございます。また、大会長をお務めいただく広島県歯科医師会会長の山崎健次先生をはじめ、広島県歯科医師会・中国地域歯科医療管理学会の先生方には、地域での歯科医療管理学の発表・討議及び研修の場を提供いただき、深く感謝いたします。

今回開催される総会・学術大会において掲げられたメインテーマの「2025 年問題といわれていた、今」は、2025 年問題という「高齢者の急増への対応」が課題であり、今の地域歯科医療のあり方を考察する点では重要であると考えています。今後は、「2040 年」という、次の期間が出てきますが、今後の 15 年間は、現役世代の急激な減少を意味し、また大きな課題になると認識しています。

さて、本年 7 月の沖縄での第 66 回日本歯科医療管理学会総会・学術大会は、演題数・参加者も新型コロナウイルス感染症蔓延の前の状態にもどり、ほぼ満席の会場での学会を持つことができ、成功裏に終えることができました。ここに、参加された先生方に感謝いたします。この総会・大会のテーマは「2040 年 未来に向けての羅針盤」でしたが、人口が減少し、歯科医師数の減少・偏在化がより強くなる中で、歯科医療そのものの在り方についても論議・検討できたことに、意味があったと考えております。この分野の研究は本学会の得意とするところですが、安全で安心な歯科医療提供は大前提で、地域での歯科医療提供を今後どのような形で展開するのが望ましいかを考える必要があります。しかし、例え公共性の高い歯科医療であっても継続的な経営管理（たとえ公的機関であって採算性を考慮する必要はありません）も見据えて構築する必要があると考えられます。

すなわち、「医療安全」と「地域連携」に加え、継続的な歯科医療を安定提供できる経済環境に関わる問題を 3 つ目の課題に据えて進めております。

会員の先生方と一緒に、それぞれの地域で実践できてこそ、本学会の意味があるものと考えています。社会環境も不安定であり、厳しい時期ではありますが、今後も会務運営に向けて、是非ご協力を賜りたいと存じます。国民が望む歯科医療とは何か、日本歯科医療管理学会が歯科界での礎となって示していけるよう、全力を尽くしていきたいと考えております。

当日は、私が、貴学会総会・学術大会にお邪魔しますので、是非、気軽にお声掛けください。

会長挨拶



中国地域歯科医療管理学会

会長 森 本 徳 明

令和7年度中国地域歯科医療管理学会総会・学術大会の開催にあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。本大会の開催にあたり、快く大会長をお引き受けいただいた山崎健次広島県歯科医師会長に御礼申し上げます。また、尾崎哲則日本歯科医療管理学会理事長、柴垣博一同学会専務理事をはじめ、中国地域歯科医療管理学会役員の皆様、学会員の皆様はじめ、各県歯科医師会事務局の皆様、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

本年度、本大会を担当するにあたり、「2025年問題といわれていた、今」をメインテーマとさせていただきました。ご存じのとおり「2025年問題」とは、2006年に厚生労働省が「今後の高齢化の進展～2025年の超高齢社会像～」で報告したことに始まります。2025年を境に、日本で団塊の世代（約800万人）が全員75歳以上の後期高齢者となり、国民の約5人に1人が後期高齢者となる超高齢社会の到来により、社会のさまざまな分野に大きな影響が及び、医療・介護ニーズの増大、社会保障費の急増、労働力不足の深刻化、企業における事業承継の問題などが懸念され、社会全体で持続可能な対策を講じることが急務とされておりました。

そして現在、2025年となり、この10年間で国をはじめとする立法府、行政、各種団体はどのように対応し、社会の状況は予想通り変化しているのでしょうか。医療の分野では、この10年間にはコロナ禍の4年間もあり、それによりテレワーク等の技術が急激に進み、医療DXを推進する動きや保険制度の改定、専門医制度、医療広告の変化などにより、医療の地域偏在や医療技術のデジタル格差が加速しているなど、予想以上の変化が生じているように感じます。この10年で予想されたこと、実際に起こったこと、それに対しての施策と我々の対応を再評価すれば、今後の指針になるのでは、という考えからこのテーマを選択しました。特別講演として、日本歯科医療管理学会専務理事で神奈川県開業の柴垣博一先生に「臨床医の目線からの歯科医療管理と感染管理対策」と題したご講演をいただきます。

さらに本会の活動として、今年は歯科医療提供体制に関する中国5県の調査をまとめ、7月に開かれた第66回日本歯科医療管理学会で発表し、多くの反響をいただきました。これも2025年の現状把握からの将来予測になります。今後は各県歯科医師会に研究結果をご報告し、中国5県各県における歯科医療提供体制の維持に関わる有効な資料として役立つことを期待しています。

午後には、各県の先生方より様々な視点からの11題の一般口演をいただいております。活発な議論が交わされることを期待しております。本大会が皆様にとって実り多い大会となりますよう、祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

概要と日程

■10月25日(土) 役員会、懇親会

17:00～ 第2回役員会

広島県歯科医師会館 6階「601・602 会議室」

〒732-0057 広島市東区二葉の里 3-2-4

18:30～ 懇親会「料亭 二葉」(会費：9,000 円)

〒732-0057 広島市東区二葉の里 2-5-11

■10月26日(日) 総会、学術大会

会場 広島県歯科医師会館 2 階「ハーモニーホール」

8:30～ 受付開始 (参加費:3,000 円)

9:00～ 9:40 総会

9:45～10:00 学術大会開会行事

10:00～12:00 特別講演(認定医研修会)

「臨床医の目線からの歯科医療管理と感染管理対策」

講師:一般社団法人日本歯科医療管理学会

専務理事 柴垣 博一 先生

12:00～13:00 休憩 (昼食)

13:00～15:30 一般口演(11 題)

15:30 閉会

お知らせとお願い

■学会参加者の皆様へ

1. 会場では名札をお付けください。
2. 日本歯科医師会生涯研修登録は一括申請致しますので受付で生涯研修番号をお知らせください。
3. 弁当は各自ご手配をお願いします。なお、学会役員、座長、一般口演者の方は昼食を用意しております。

■学会役員の方へ

1. 役員会は10月25日(土)17:00から広島県歯科医師会館6階「601・602会議室」にて行います。

■学会員の方へ

1. 総会は10月26日(日)9:00から広島県歯科医師会館2階「ハーモニーホール」にて行いますので、ご出席ください。

■座長の方へ

1. 座長は、時間前に次座長席にて待機願います。
2. 演者との打ち合わせを兼ねた昼食会を2階「研修室」にて行います。

■認定医の方へ

1. 今回の特別講演は認定医研修会となっております。修了証が必要な方は受付にて3,000円を添えてお申込みください。

■一般口演演者の方へ

1. 口演時間は、発表10分質疑応答2分の計12分です。時間通りの進行にご協力ください。
2. 次演者は、次演者席でお待ちください。
3. 発表形式は液晶プロジェクター（単写）となります。
4. プレゼンテーションは学会で用意したPCを使用します。発表データは事前に学会事務局までご提出願います。試写は会館2階「研修室」にて、8:30～9:00の間に行います。また、当日データの差し替えがある場合も、上記時間内にお申し出ください。
5. PCはWindows11、PowerPoint2021(Hom&Business)を用意します。
6. 座長との打ち合わせを兼ねた昼食会を2階「研修室」にて行います。

プログラム

9:00～ 9:40 中国地域歯科医療管理学会 総会

9:45～10:00 開会行事

- ・ 開 会
- ・ 大会長挨拶 広島県歯科医師会会長 山崎 健次
- ・ 会 長 挨 拶 中国地域歯科医療管理学会会長 森本 徳明
- ・ 祝 辞 日本歯科医療管理学会理事長 尾崎 哲則

10:00～12:00 特別講演

座長：森本 徳明(広島県)

「臨床医の目線からの歯科医療管理と感染管理対策」

講師：一般社団法人日本歯科医療管理学会

専務理事 柴垣 博一 先生

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～15:30 一般口演

座長：越宗 紳二郎(岡山県)

1. 一般歯科医院における医科歯科連携の実践と課題

～ 診療情報連携共有料・総合医療管理加算の活用と運用実績 ～

○佐藤裕二

(広島県 さとう歯科医院)

2. 災害危機管理に関する意識調査—医療従事者の災害意識から考えること—

○平田敦司¹ 加藤正昭¹ 前原東章¹ 金田俊彦¹ 山本晃生¹

田部雅樹¹ 大井手和久¹ 広瀬佐都子¹ 森川直樹¹ 河底晴紀¹

三分一福展¹ 野々山大介¹ 福傳龍司¹ 板谷和徳¹ 木本知秀^{1、2}

山我貴之^{1、2} 天間裕文^{1、2} 森本徳明¹ 石田栄作²

(¹広島県歯科医師会医療管理部、²広島県歯科医師会歯科医療安全対策室)

座長：山中 友之(山口県)

3. 岡山県歯科医師会における歯科衛生士支援事業について 第1報

○松島章子 丸濱功太郎 盛野哲生 山下 将 秦泉寺傑 洲脇道弘
此内浩信 浜崎健介 角南善章 越宗紳二郎 弘末 勝 野崎真弘
本多浩三 石戸善一郎

(岡山県歯科医師会)

4. 岡山県歯科医師会における歯科衛生士支援事業について 第2報

○此内浩信 丸濱功太郎 盛野哲生 山下 将 秦泉寺傑 松島章子
洲脇道弘 浜崎健介 角南善章 越宗紳二郎 弘末 勝 野崎真弘
本多浩三 石戸善一郎

(岡山県歯科医師会)

座長：木本 知秀(広島県)

5. 近年の物価高騰による山口県における診療所の歯科衛生士への対応について

○千藏紘一^{1、2} 松尾宗一郎^{1、2} 松田 馨^{1、2} 田中久雄^{1、2}
山崎真弘^{1、2} 山中友之^{1、2} 南崎信樹² 小山茂幸²

(¹山口県歯科医師会医療管理委員会、²山口県歯科医師会)

6. カスタマーハラスメントについて

○小田浩一 小田 紫

(鳥取県 小田歯科医院)

座長：大森 智弘(鳥取県)

7. 「歯科医療提供体制維持に向けての中国 5 県調査」からみた雲南圏域の実状と考察

○青木 誠¹ 永井健夫¹ 朝比奈圭¹ 澄川裕之¹ 藤江 徹¹
末森一彦¹ 檜谷邦茂²

(¹島根県歯科医師会医療管理部、²小さな拠点ネットワーク研究所)

8. 「歯科医療提供体制維持に向けての中国5県調査」から見た浜田圏域の実状と考察

○永井健夫¹ 朝比奈圭¹ 澄川裕之¹ 藤江 徹¹ 青木 誠¹
末森一彦¹ 檜谷邦茂²

(¹島根県歯科医師会医療管理部、²小さな拠点ネットワーク研究所)

座長：末森 一彦(島根県)

9. 鳥取県における歯科医院の終活についての意識調査

○名倉 秀 池田実央 大森智弘 林 克也 庄司和伸 中村裕志

(鳥取県歯科医師会医療管理委員会)

10. 山口県内の歯科口腔外科の現状と課題

○松田 馨^{1、2} 松尾宗一郎^{1、2} 千藏紘一^{1、2} 田中久雄^{1、2}

山崎眞弘^{1、2} 山中友之^{1、2} 南崎信樹² 小山茂幸²

(¹山口県歯科医師会医療管理委員会、²山口県歯科医師会)

11. 広島県歯科医師会会員用スマホアプリの開発

○河底晴紀¹ 森本徳明¹ 野々山大介¹ 金田俊彦¹ 加藤正昭¹

大井手和久¹ 平田敦司¹ 福傳龍司¹ 田部雅樹¹ 広瀬佐都子¹

森川直樹¹ 前原東章¹ 三分一福展¹ 山本晃生¹ 板谷和徳¹

山我貴之^{1、2} 木本知秀^{1、2} 天間裕文^{1、2} 石田栄作²

(¹広島県歯科医師会医療管理部、²広島県歯科医師会歯科医療安全対策室)

15:30

閉 会

抄 録

特別講演 P11

一般口演 P12～22

特別講演(認定研修会)

臨床医の目線からの 歯科医療管理と感染管理対策

一般社団法人日本歯科医療管理学会
専務理事 柴垣 博一



本講演会では、臨床医の目線からの歯科医療管理と感染管理対策についてお話しさせていただきます。まず、1点目の臨床医の目線からの歯科医療管理について考えてみたいと思いますが、医療を取り巻く環境は日々急速に変化してきています。医療が国策である以上、歯科医療管理に関わる医療安全や感染管理といった側面も国の政策が変わればそれに合わせ診療室での取り組みやスタッフに対する教育も含め診療体制を変えなければなりません。本学会は「医療安全」と「地域連携」を活動方針の2本柱として学会運営を行なっていますが、臨床開業医において経営面での安定も欠かせない問題になります。経済も含めた経営管理学的側面も考慮した医療管理のあり方が必要とされてきています。臨床医にとって歯科医療管理とは何か？先代の先生方が培われた歴史を紐解き現在の歯科医療のあり方について考えてみたいと思います。

そして、2点目として私たち臨床医にとっての診療所での感染管理とは何か？

2006年(平成18年)6月に「良質な医療を提供する体制を図るための医療法等の一部を改正する法律」(改正医療法)が成立し、無床診療所を含む全ての医療機関に安全管理体制の充実・強化、院内感染防止体制等が義務付けられ感染対策マニュアルの策定が必修となりました。歯科における院内感染防止の考えは、2003年の米国疾病管理予防センター(CDC)が公表した「歯科医療における感染管理のためのCDCガイドライン」および標準予防策(スタンダードプリコーション1996年)に準拠しています。感染予防は、患者・医療従事者、患者・患者、医療従事者・医療従事者の相互間でなされなければなりません。口腔という唾液、血液等の組織液の中で医療行為を行う私達にとって、最低限取り組まなければいけない感染管理について、感染の基礎知識と私の診療所の実例を通してお話しさせていただきます。

略歴：

- 1989年 朝日大学歯学部卒業
- 1992年 柴垣歯科医院開設(神奈川県綾瀬市)
- 2000年 博士(歯学)授与(昭和大学歯学部)
- 2017年 (公社)日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部学術賞受賞

所属学会：

- (一社)日本歯科医療管理学会 専務理事・認定医・指導医
- (公社)日本口腔インプラント学会 専門医・指導医・代議員・学術委員
- (公社)日本歯科先端技術研究所 会長・認定医・指導医

一般口演 1

一般歯科医院における医科歯科連携の実践と課題 ～診療情報連携共有料・総合医療管理加算の活用 と運用実績～

○佐藤裕二

(広島県 さとう歯科医院)

1. 緒言

超高齢社会において、医科歯科連携の重要性が増している。健康保険には総合医療管理加算（総医）、歯科治療時医療管理料（医管）、診療情報提供料Ⅰ（情Ⅰ）、診療情報連携共有料（情共）があるが、算定は少ない。理由として、①診療中に照会状作成の時間がない、②経験不足、③記載項目が多い、④問い合わせ先不明、⑤返答後の対応不明などが挙げられる。本報告では、一般歯科医院における簡便かつ継続可能な連携体制の構築について述べる。

2. 取り組みの内容

総医算定に特化した照会状ひな形を作成し、FAX 送付→回答整理→カルテカバーへの病名シール貼付という一連の流れを確立した。口腔機能低下症管理を充実させ、無歯顎患者でも総医算定を可能とした。2024 年 6 月より総医、医管、情共、ハイリスク加算の算定件数を継続集計した。

3. 結果

開始直後（2024 年 6 月）、情共は約 150 件と急増したが、その後は減少し月平均 20 件で安定。医管は月平均 20 件前後で推移。総医は漸増し月に約 150 件以上、ハイリスク加算は月平均 40-50 件となった。

4. 考察・結論

本取り組みにより、全身疾患の知識の向上、医科との連携強化、医療安全向上、患者不安軽減、診療実績向上といった利点が得られた。一方、開始初期の作業負担増、患者負担金増、一部医科側の負担感も認められた。以上より、簡便な照会状テンプレートと情報整理の仕組み化により、一般歯科医院においても現実的な医科歯科連携の運用が可能であることが示された。

一般口演 2

災害危機管理に関する意識調査 —医療従事者の災害意識から考えること—

○平田敦司¹ 加藤正昭¹ 前原東章¹ 金田俊彦¹ 山本晃生¹

田部雅樹¹ 大井手和久¹ 広瀬佐都子¹ 森川直樹¹ 河底晴紀¹

三分一福展¹ 野々山大介¹ 福傳龍司¹ 板谷和徳¹ 木本知秀^{1、2}

山我貴之^{1、2} 天間裕文^{1、2} 森本徳明¹ 石田栄作²

(¹広島県歯科医師会医療管理部、²広島県歯科医師会歯科医療安全対策室)

南海トラフ地震をはじめ様々な自然災害が予想される広島県において、医療従事者には高い防災意識・知識等が必要と考えられる。しかしながら、その実情は不明であると言わざるを得ない。そこで、広島県における歯科医療従事者の災害危機管理の現状を知るため、広島県歯科医師会会員 1,301 名を対象として災害危機管理に関する意識調査アンケート（有効回答 235 名、回答率 18.06%）を行い、現在の課題から今後の展望を検討することとした。

その結果、多くの歯科医療従事者が災害に対して「とても不安」「やや不安」との意識を有している一方で、実際に被災経験を持つ者は限定的であり、不安の大きさと具体的な防災行動の実施状況の間に明確な乖離がみられたほか、ハザードマップや避難場所の確認が不十分、非常食や水の備蓄が 3～4 日分程度、ローリングストックの実施率が半数未満、災害保険の見直しが 3 割程度にとどまるなど、備えの不足が浮き彫りとなった。

また、日本災害歯科支援チーム（JDAT）などの災害医療チームの認知度は高く、支援への潜在的な関心は一定程度認められた。しかしながら災害研修会への参加経験は少なく、その理由として時間的制約や無関心が阻害要因となっていることが挙げられた。

以上より、歯科医療従事者が地域の健康と命を守る担い手としての役割を果たすためには、単なる意識の高さにとどまらず具体的な行動につなげる研修の充実と認知の向上、平時からの備蓄強化、デジタルメディアに過度に依存しない複数の情報伝達手段の確保が不可欠であることが示唆された。

今回の様な意識調査は、広島県における歯科医療従事者自身の防災行動を促すとともに地域医療体制や防災教育の在り方を再考する契機になると考えられる。

一般口演 3

岡山県歯科医師会における歯科衛生士支援事業 について 第1報

○松島章子 丸濱功太郎 盛野哲生 山下 将 秦泉寺傑 洲脇道弘
此内浩信 浜崎健介 角南善章 越宗紳二郎 弘末 勝 野崎真弘
本多浩三 石戸善一郎

(岡山県歯科医師会)

1. 事業の概要

全国的な歯科衛生士不足は「2025年問題」とも関連し、岡山県でも深刻な課題である。復職支援や離職防止を通じ持続可能な歯科医療提供体制を築くため、岡山県歯科医師会は2022年に「歯科衛生士支援事業 (DH Support Project)」を開始した。本会、歯科衛生士会、歯科衛生士養成校の三団体が連携し、キャリア形成と就業支援を推進している。

2. 主な取り組み

事業の柱は、出産・育児・介護等で離職した歯科衛生士への復職支援と、新人や学び直し希望者への再学習支援である。具体的には、大人数向け講演形式の「DH スキルアップセミナー」、少人数制・実習付きの「DH ベーシックコース」、復職希望者と求人歯科医院をつなぐ無料職業紹介「復職マッチングサポート」を実施している。

3. DH スキルアップセミナーの実績

本セミナーは2022年以降、年2回開催を継続し、これまでに計7回実施した。会場とオンライン併用のハイブリッド形式に加え、振り返り視聴を導入したことで、現職歯科衛生士を中心に、復職希望者、学生、遠方在住者など幅広い層が参加し、延べ参加者数は1500人を超えた。参加経路は「勤務先院長の紹介」「チラシ」が多いが、HPやLINE経由も増えており、広報の多様化が有効であることが示された。一方で潜在歯科衛生士への周知不足は今後の課題である。アンケートでは満足度90%以上を得ており、「臨床に直結する学び」「自己研鑽意欲の向上」「ハイブリッド開催の継続希望」など肯定的意見が多数を占めた。

4. 考察とまとめ

本セミナーは改善を重ね、多様な背景をもつ歯科衛生士が参加しやすい環境を整えてきた。歯科衛生士の多くは女性であり、ライフステージの変化において離職と再就業を繰り返す傾向がある。本事業は、女性が資格を活かし長期的に活躍できる社会基盤づくりや地域歯科医療提供体制の安定に寄与すると考える。今後も三団体が連携し、歯科衛生士が安心して働き続けられる環境整備と、キャリアの節目に拠り所となる仕組みづくりを発展させていきたい。

一般口演 4

岡山県歯科医師会における歯科衛生士支援事業 について 第2報

○此内浩信 丸濱功太郎 盛野哲生 山下 将 秦泉寺傑 松島章子
洲脇道弘 浜崎健介 角南善章 越宗紳二郎 弘末 勝 野崎真弘
本多浩三 石戸善一郎

(岡山県歯科医師会)

目的

岡山県歯科医師会では、歯科衛生士支援事業の一環として DH ベーシックコースを実施しています。ブランクのある離職者、臨床経験の少ない新人歯科衛生士および技術に不安を抱える在職者の技術的不安を解消することを目的として基礎的な技術実習を行っています。

本事業は年2回開催でこれまでに全6回を開催し、各回20～30名の受講者の参加がありました。本発表はベーシックコースについて紹介するとともに今後の本事業の継続・発展を通じて歯科衛生士の復職支援、離職防止およびキャリアアップに寄与することを目的として受講者の事後アンケートを実施したので、その結果を分析、検討しました。

方法

事後に無記名アンケートを実施しました。

アンケート項目は各回で異なるものの、参加のきっかけ、内容の満足度と自由記載による感想、要望が共通した項目でありました。各項目は5段階評価で集計した。自由記載はテキストマイニングを使用し視覚的に目立つ単語を抽出し、元の文章を評価しました。

結果

- ①参加のきっかけは各回とも勤務先の院長紹介が最も多いものの、本事業が設置したLINEによる告知が回を増すごとに増加しました。
- ②実習の内容に関する満足度は各回とも5段階評価中「大変満足」と「やや満足」を併せて90%以上でありました。
- ③「基礎的技術をしっかり学べて自信につながった」
「マンツーマンでの対応で親身に教えていただいてよかった」
「事前の動画配信があり実習時間がしっかりあってよかった」
「離職時にこのような機会があって助かる。別の内容も受講したい」
「フレンドリーな環境の実習で緊張なく受講できてよかった」
「他の医院のDHさんと交流が持てて頑張ろうという気になった」
等に代表される感想が多かったです。

まとめ

歯科衛生士支援事業の一環として、年2回ペースで計6回のベーシックコースを開催し、参加者からは高評価を得ました。しかし、参加によって自信が持てる実習内容を用意したものの、離職者の参加は各回で0～2名と少数であり、最大の課題は離職者への告知手段と考えられました。短期間で現状を大きく変えることは難しいため、「眠れる歯科衛生士」の掘り起こしだけでなく、参加経験者の離職を防ぐこと、また参加経験者へのLINEによる情報提供や本事業への再度の参加により、一度離職した場合の復職支援ができればと考えています。このような未来を見据えた活動の意義から、本事業を継続・発展させることは価値があるものだと考えています。

一般口演 5

近年の物価高騰による山口県における診療所の 歯科衛生士への対応について

○千藏紘一^{1、2} 松尾宗一郎^{1、2} 松田 馨^{1、2} 田中久雄^{1、2}

山崎眞弘^{1、2} 山中友之^{1、2} 南崎信樹² 小山茂幸²

(¹山口県歯科医師会医療管理委員会、²山口県歯科医師会)

近年、日本全体で物価が上昇する中、労働者の給与について名目上はやや増加しても、実質賃金では停滞又は微減といった傾向が続いている。医療分野においても業務の専門性と負担の重さに対し賃金が見合っていないという指摘も多く、歯科衛生士も例外ではない。実際に医療業界では一般企業に比べ賃上げ率が低く、医療機関における賃上げ率は2%程度にとどまっており、企業平均の5%程度には届いていない。

また令和6年度の診療報酬改定に伴い、特に人材確保の定着を目的とした医療従事者の賃上げを支援するための診療報酬上の加算制度としてベースアップ評価料が導入された。これが賃上げに一定の効果があると評価がされている。ただし、その効果の程度や実際の賃上げの波及には限界や課題があることも指摘されている。

そこで山口県歯科医師会医療管理委員会では、山口県における歯科衛生士の給与が物価高騰によりどのように変化しているか、今の状況に見合った賃金となっているか、そして診療報酬改正で新設されたベースアップ評価料に対して診療所側がどのように感じ、行動しているかを確認するため、山口県内の歯科診療所578件に対しアンケート調査を行った。回答率は24%であった。

給料の引き上げの必要性を感じている診療所が大半ではあるが、診療所それぞれで対応に違いがあり、ベースアップ評価料についても診療所側の色々な意見、感想を聞く事ができたので、考察とともに報告する。

一般口演 6

カスタマーハラスメントについて

○小田浩一 小田 紫

(鳥取県 小田歯科医院)

歯科医師会の苦情処理担当をしていると様々なトラブルの問い合わせに遭遇する。その中でカスタマーハラスメントの相談を会員から直接受ける事がある。

カスタマーハラスメント（カスハラ）は、サービス提供者や従業員が顧客から受ける理不尽な要求や暴言、暴力などの迷惑行為を指す言葉であるとされている。近年、医療機関を含むさまざまな業界でカスハラが社会問題として注目されており、職場の安全や従業員の精神的健康に重大な影響を及ぼしている。

私の医院ではカスタマーハラスメントを起こさない様に患者さんの訴え、態度、言葉尻から性格を判別し、慎重な対応でカスタマーハラスメントを何とか防いで来ているが、カスタマーハラスメント事例に関わっていると、防げたであろうと思うものと、やむを得ないものがある事に気づく。

カスタマーハラスメントは苦情・相談の中でも増加傾向にあると感じるので、皆さんの参考になる様にその原因と対応方法を分析し検討してみたのでその結果を報告する。

一般口演 7

「歯科医療提供体制維持に向けての中国 5 県調査」 からみた雲南圏域の実状と考察

○青木 誠¹ 永井健夫¹ 朝比奈圭¹ 澄川裕之¹ 藤江 徹¹
末森一彦¹ 檜谷邦茂²

(¹島根県歯科医師会医療管理部、²小さな拠点ネットワーク研究所)

2040 年を見据えた新たな地域医療構想では、歯科医師や歯科医療従事者の養成、偏在是正が検討課題とされている。近年、一部の大都市を除く地域では、無歯科医地区の増加、歯科診療所の減少、歯科医師の高齢化など、さまざまな問題が顕在化している。

医療計画には人材確保や口腔保健体制の整備が盛り込まれるが、その実効性には地域差が大きい。地域包括ケアシステムにおける歯科の役割は、歯科疾患の予防や重症化予防の推進にはじまり、摂食機能の維持・回復への支援、医療・介護職との多職種連携、要介護高齢者への在宅歯科医療の推進、さらには障害者（障害児）への歯科医療提供体制の構築など多岐にわたる。

今回は、島根県雲南圏域（雲南市・奥出雲町・飯南町）を対象に現状と課題を明らかにした。同圏域は県内でも中山間地で過疎が進行する典型例であり、歯科医師の高齢化と後継者不足が顕著であることから、県内の歯科医療受給を代表する「対照事例」と位置づけられる。人口は 1 市 2 町で約 4 万 9,300 人、高齢化率は 45.2%に達し、中山間地域特有の地理的条件を有する。医療資源としては病院歯科（口腔外科）2 施設、内科診療所併設歯科 1 施設、歯科診療所 17 施設が所在する。さらに、隣県地域には歯科受診困難地区も存在する。

雲南圏域は、中山間地域における歯科医療体制維持の困難さを象徴する事例であり、今後の歯科医療計画の実効性を検討する上で重要な示唆を与えられと考えられる。抽出された主要課題について考察する。

一般口演 8

「歯科医療提供体制維持に向けての中国 5 県調査」 から見た浜田圏域の実状と考察

○永井健夫¹ 朝比奈圭¹ 澄川裕之¹ 藤江 徹¹ 青木 誠¹
末森一彦¹ 檜谷邦茂²

(¹島根県歯科医師会医療管理部、²小さな拠点ネットワーク研究所)

今回、「歯科医療提供体制維持に向けての中国 5 県調査」を用いて、島根県浜田圏域（浜田市・江津市）を対象に、現状と課題を明らかにした。同圏域は島根県の中央に位置し、北は日本海、南は広島県に接する中山間地域である。海岸沿いに人口が集中する一方、山間部の人口減少は著しい。人口は約 6 万 9 千 7 百人、高齢化率は約 39.3%である。医療資源としては病院歯科が 2 施設、歯科診療所が 29 施設所在する。歯科医院は海岸沿いに偏在し、山間部では広範囲に受療困難地区が拡大している。さらに、歯科医師の高齢化と後継者不足も顕著であり、2035 年には歯科医療機関数が半減することが予測されている。人口減少率よりも歯科医療機関の減少率が大きく、今後は良質な歯科医療の提供が困難となることに加え、学校歯科検診や各種会議への参加など、行政運営への協力体制にも影響が及ぶと考えられる。また、浜田圏域には浜田市、江津市があり、それぞれ異なる問題も存在する。行政区域の違いによる方針の違いや連携の難しさもあり、問題解決に向けた検討の困難さも予想される。

中国 5 県各地区の現状は多様であり、また、中国地区・都道府県・二次医療圏・市区町村といった検討単位によっても課題の見え方は異なる。今回は地域医療計画の基本単位として用いられる二次医療圏を対象に分析を行った。医科領域では地域偏在や医師・看護師不足が話題になることが多いが、歯科領域ではまだ十分に理解されていないのが現状である。各地区ごとの分析結果を、行政との協議や市民への啓発の契機とし、今後の歯科医療提供体制維持に向けた取り組みの一助としたい。

一般口演 9

鳥取県における歯科医院の終活についての意識調査

○名倉 秀 池田実央 大森智弘 林 克也 庄司和伸 中村裕志

(鳥取県歯科医師会医療管理委員会)

鳥取県の人口は 2000 年に約 60 万人を記録したが、それをピークに減少し、現在は 52 万 5 千人である。国立社会保障・人口問題研究所の発表によると、2030 年には 50 万人、2040 年には 45 万人、2050 年には 40 万人をわりこむ見込みである。

人口の減少は歯科医師の都市部への集中もあり、地方では後継者不足となり、地域医療の継続に支障をきたすと考えられる。鳥取県内でも 60 代以上の先生方が会員の半数以上を占めており、10 年、20 年先には会員数の大幅な減少を迎えることになり、喫緊の課題となっている。

そのため、鳥取県歯科医師会では令和 7 年 5 月に歯科医院の終活についてのアンケート調査を行った。今回得られたアンケート調査から鳥取県の歯科医院の将来についても考察してみたいと思う。

一般口演 10

山口県内の歯科口腔外科の現状と課題

○松田 馨^{1、2} 松尾宗一郎^{1、2} 千藏紘一^{1、2} 田中久雄^{1、2}
山崎眞弘^{1、2} 山中友之^{1、2} 南崎信樹² 小山茂幸²

(¹山口県歯科医師会医療管理委員会、²山口県歯科医師会)

現在、山口県には市町村合併により 19 の市町がある。そのうち口腔外科を有する総合病院は山陽・瀬戸内側だけに存在し、山陰・日本海側には口腔外科を有する総合病院はない。

今後更なる少子高齢化・過疎化により、山陰・日本海側以外でも必要最低限の処置しか望めなくなるのではないのかと、県歯科医師会では不安を感じた。そのため近い将来への対応・対策のため山口県内総合病院歯科口腔外科にアンケート調査を実施した。

アンケートを出したのは県内の歯科口腔外科を有する大学病院・総合病院が 14 件のうち 13 件 (92.8%) から回答があった。

アンケートの内容は以下の通りである。

医局員数・充足の有無・医局員数への不安・全身麻酔 静脈内鎮静下での抜歯の可否・紹介後初診対応までの平均日数・全身麻酔 静脈内鎮静下までの平均日数・紹介患者への苦慮・開業医への要望について行った。

回答が得られた 13 の医療機関のうち 7 つの医療機関で医局員数が充足していないと答えた。また今後の医局員数への不安に対しては 10 の医療機関で不安を感じており、さらにそのうち 3 つの医療機関で医局員数は充足しているものの不安を感じていると答えられた。

13 の医療機関のうち 3 つの医療機関において全身麻酔下での治療が行われていない。また基本的に初診対応まで 1 か月以内だが、治療までに 2 か月以上待ちの医療機関もあることがわかった。

口腔外科医を増加させることは困難であるから、現在我々開業医が出来る取り組みは時間と人手の足りない総合病院・口腔外科の負担を減らすことだと思われる。そのため県内会員に口腔外科へ紹介・依頼する際は、「身近な拠点病院の予約システムを理解」、「紹介状に具体的な紹介理由を記載」、「患者へは紹介理由を理解得られるまで説明」、「開業医で行える処置を依頼しない」、「治療方針、治療計画を立てて紹介する」ことを発信し周知していく必要があることが判明した。

一般口演 11

広島県歯科医師会会員用スマホアプリの開発

○河底晴紀¹ 森本徳明¹ 野々山大介¹ 金田俊彦¹ 加藤正昭¹
大井手和久¹ 平田敦司¹ 福傳龍司¹ 田部雅樹¹ 広瀬佐都子¹
森川直樹¹ 前原東章¹ 三分一福展¹ 山本晃生¹ 板谷和徳¹
山我貴之^{1、2} 木本知秀^{1、2} 天間裕文^{1、2} 石田栄作²

(¹広島県歯科医師会医療管理部、²広島県歯科医師会歯科医療安全対策室)

広島県歯科医師会では、令和6年度に会員向けスマートフォンアプリの開発に着手し、令和7年6月より運用を開始した。本アプリは、災害時においても携帯しており、電源等含め通信が比較的安定しているスマートフォンを活用し、会員および診療室の被災状況を県歯事務局で迅速に把握する「安否確認機能」を中心に設計した。さらに、平時においても会員にとって有用なツールとなるよう、「お知らせ機能」「研修会申込機能」「アンケート機能」を付加し、会員との情報の共有、作業効率化を目指した。「安否確認機能」では、発災時に会員が選択式の設問に回答することで、会員および診療室の被災状況を事務局が一元的に状況を把握することができる。「お知らせ機能」では、アプリ内から会員専用ホームページの時系列で並んだ情報にアクセス可能とした。「研修会申込機能」では、開催予定の研修会を一覧表示し、簡便な申込を実現している。また、「アンケート機能」では既存のWEBアンケートシステムへ誘導する形で回答が可能となっている。

開発にあたっては、高齢の会員にも利用しやすいよう配慮し、機能は最小限に絞り、操作はシンプルかつ視認性の高い画面設計とし、最小限の入力操作で完結するユーザーインターフェースを重視した。事務局の業務効率にも配慮し、既存の会員データやWEBシステムとの連携により、情報収集やデータ集計に要する業務量の増加を抑制する仕様とし、導入コストも抑えることを意識した。現在は導入直後であるため利用率は限定的であるが、導入した会員からは高い評価を得ており、今後は災害時の即応に備え、被災の通報訓練などを行いつつ、さらなる導入促進を目指して広報活動を強化し、導入率の向上を図る予定である。

[illegible]

開催のあゆみ

日本歯科医療管理学会中国支部総会・学術大会一覧

開催年	開催日	会 場	メインテーマ	当番県	支部長	大会長
平成 12 年度	H12.11.19	広島県歯科医師会館	歯科医療戦後史の総括と未来への提言	広島	林 偕一	本山 栄荘
平成 13 年度	H13.11.25	山口県歯科医師会館	良質な歯科医療を提供するために	山口	重田 司郎	永富 稔
平成 14 年度	H14.11.23	米子国際ホテル	良質な歯科医療を提供するためにⅡ	鳥取	重田 司郎	---
平成 15 年度	H15.11.23	岡山県歯科医師会館	良質な歯科医療を提供するためにⅢ ー患者に喜ばれる歯科医院を目指してー	岡山	重田 司郎	小林 敏郎
平成 16 年度	H16.11.21	島根県歯科医師会館	良質な歯科医療を提供するためにⅣ	島根	大畑 実	青戸 泰吉
平成 17 年度	H17.11.20	広島県歯科医師会館	今、歯科医療に求められるもの	広島	清水 勢一	本山 栄荘
平成 18 年度	H18.11.26	山口県歯科医師会館	今、歯科医療に求められるものⅡ	山口	竹永 喜一	右田 信行
平成 19 年度	H19.10.28	鳥取県西部歯科医師会館	今、歯科医療に求められるものⅢ	鳥取	樋口壽一郎	林 伸伍
平成 20 年度	H20.11.9	岡山県総合福祉会館	安心・安全な歯科医療を目指して	岡山	西田 宜可	酒井 昭則
平成 21 年度	H21.11.8	島根県歯科医師会館	安心・安全な歯科医療を目指して	島根	大森 学	仲佐 善昭
平成 22 年度	H22.11.14	広島県歯科医師会館	生活を支える歯科医療を目指して	広島	石田 栄作	山科 透
平成 23 年度	H23.10.30	山口県歯科医師会館	生活を支える歯科医療を目指して	山口	神吉ゆかり	右田 信行
平成 24 年度	H24.10.28	鳥取県歯科医師会館	良質な歯科医療の提供を目指して	鳥取	中村 裕志	樋口壽一郎
平成 25 年度	H26.2.2	岡山市市民会館 岡山県歯科医師会館	今、あらためて歯科医療安全を考える	岡山	西田 宜可	酒井 昭則
平成 26 年度	H26.11.23	島根県歯科医師会館	「求められる医療管理の意識改革」 ～次世代への Stay or Challenge～	島根	内田 朋良	渡邊 公人
平成 27 年度	H27.5.29 ～31	岡山国際交流センター	日本歯科医療管理学会（岡山県開催） 医療管理の未来ー変わりゆく診療環境の なかでー	広島	芦浦 文佳	酒井 昭則
平成 28 年度	H28.10.16	山口県歯科医師会館	安心安全な患者本位の歯科医療	山口	榎尾 隆一	小山 茂幸
平成 29 年度	H29.10.15	鳥取県西部歯科医師会館	歯科医療従事者の自律を支援する医療管理	鳥取	中村 裕志	樋口壽一郎

中国地域歯科医療管理学会総会・学術大会一覧

開催年	開催日	会 場	メインテーマ	当番県	学会長	大会長
平成 30 年度	H30.10.28	サン・ピーチ OKAYAMA	地域の中できかりつけ歯科医のできるこ と、なすべきこと	岡山	南 哲之介	酒井 昭則
令和 1 年度	R1.10.20	島根県歯科医師会館	歯科医療環境の将来像	島根	末森 一彦	内田 朋良
令和 2 年度	R2.11.1	広島県歯科医師会館 (WEB)	これからの歯科界のリスクを考える	広島	天間 裕文	甲野 峰基
令和 3 年度	R3.10.31	山口県歯科医師会館 (WEB)	これからの歯科界を考える	山口	山中 友之	小山 茂幸
令和 4 年度	R4.10.30	鳥取県歯科医師会館	コロナ禍で見えた安心・安全な歯科医療	鳥取	池田 実央	渡部 隆夫
令和 5 年度	R5.10.29	サン・ピーチ OKAYAMA	信頼のおける歯科医療の提供のために	岡山	石戸善一郎	西岡 宏樹
令和 6 年度	R6.10.27	島根県歯科医師会館	人口減少下における地域歯科医療を考える	島根	末森 一彦	内田 朋良
令和 7 年度	R7.10.26	広島県歯科医師会館	2025 年問題といわれていた、今	広島	森本 徳明	山崎 健次

※H30 年度より日本歯科医療管理学会中国支部から中国地域歯科医療管理学会に変更

中国地域歯科医療管理学会
令和7年度学術大会プログラム

メインテーマ

「2025 年問題といわれていた、今」

令和7年10月26日
於：広島県歯科医師会館

中国地域歯科医療管理学会
一般社団法人広島県歯科医師会